

教たま



稚内北星学園大学
坪内・佐藤ゼミ通信
第3号
2013. 12. 25
文責：江戸

このごろのゼミ活動の様子

10月開始の「教師が育つ条件」(今津孝次郎著：岩波)の読書会3ヶ月かけ12月末終了。教育・教師とは何か、「孤業」と違う「協業」の学び方も学んで。大勢のゲスト、教職課程の先生たちに深く感謝します。1月15日から「いじめ問題をどう克服するか」(尾木直樹著：岩波)で再開 **木村英之**



君(2年)が11月に1週間、フランス、オランダ、ベルギーへ。親友が恩師から「世間知らずだから世界見て来い」と言われ付き添いで。死を覚悟した時もあったようで「普通に生きる幸せを実感」にゼミ生一同感嘆。土産の掛け時計(日本製?)研究室で正確に活躍中。絵は必死な旅行中に描いた一枚。

松尾響君(3年)と**江戸勇介(3年)**で、11月30日札幌の「演劇的手法による教師教育プログラム開発」シンポジウムに参加。倉本聡さん・富良野塾による演劇的手法による教育のあり方や道教大・東京学大・愛知教大・大阪教大の学長先生による談話会もあり有意義な時間でした。特に印象に残ったのは、今の教師は、医師や親のなど多くの役割を引き受けて全てが中途半端になり信頼を失ってしまっていると。これだけは負けないというもの、ひとつのことに執念を持つことで、信頼されるのではないかと話されたこと **橋本薫さん(2年)**と**渡辺千尋(2年)**

さんが、本学の古川先生の依頼で、「スクールカーストってなに？」(宗谷思春期教育ネット：12月に市立図書館)に、教職課程履修学生3人とともにパネラーとして参加。自主ゼミで学んできた「いじめ」について考えを深め、それを聞いている人たちへわかるように伝える勉強のとてもよい機会に。



お互いをもっと知り合おうというこのコーナー。
第2回目は、斜里町出身で4年生の

池田 竜也先輩です。

いけだ たつや



●教師になろうとした理由はなんですか？

▲きっかけは、中学校の時に素敵なお先生に出会えたことです。性格の暗い私でしたが、クラスで輝ける瞬間を私に作ってくれました。

●どのような教師になりたいですか？

▲子どもたちにとって良い先生になりたいです。良い先生とは何なのか勉強中ですが、なによりも子ども一人ひとりの幸せを応援できる教師になりたいです。

●教員採用試験を受けて、自分がしてきたことやアドバイスをお願いします！

▲必死に勉強してきただけです。しかし、私一人の力で頑張れたわけではありません。たくさんの人の支えがあったからこそです。なにより大きかったことは、切磋琢磨できた仲間がいたことです。大事なことは、一人にならず、目標や夢を語り合うことが大事だと思います。

●教師を目指す後輩へのメッセージをお願いします！

▲この大学で教師を目指している学生は、できる人たちばかりだと思っています。だから先輩として言えることは何もありません。(自分よ、そんなんでもいいのか…)一緒に学校現場で働ける日を楽しみにしています。

このゼミ通信は、「学級通信」づくりの勉強としてゼミ生が交代で作成しています。市内の色々などころにも配布されていると聞いています。稚内の皆さんには、大学の授業等でも日頃からお世話になっており、ありがとうございます。これからも私たちは頑張っていきますので、どうぞよろしくお願い致します。

